

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業と情報	農業 科学科	1年	2	農業と情報（実教出版）	全商ビジネス文書実務検定模擬 試験問題集3級令和5年度版

学習の到達目標	<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技能を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
ペーパーテスト、実技 など	ペーパーテスト、実技、レポート課題 など	観察、レポート課題など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1章 私たちの生活と農業の情報化 1 情報社会における私たちの生活 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル 4 農業を支える情報	<ul style="list-style-type: none"> データと情報、意思決定の過程と情報社会の発展について理解している。 データと情報、意思決定の過程と情報社会の発展について理解している。 メディアリテラシーを身に付ける必要性を理解している。 情報化社会の光と影について考えるとともに、SNSの使い方や、個人情報の取り扱い、知的財産権の保護、モラルについて考えている。 農業の情報化の発展とデータ収集の大切さについて主体的に学習しようとしている。 	○ ○	○ ○	○
5	第2章 社会を支えるコンピュータ 1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアとソフトウェアの概要をについて理解している。 データや情報の種類とその表現方法について理解している。 情報通信ネットワークのしくみと特徴について理解している。 インターネットの概要と検索方法について理解するとともに、電子メールを適切に利用することができる。 情報社会の脅威と情報管理の重要性について主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○ ○		○
6 ~ 11	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現 (全商ビジネス文書実務検定3級に向けての学習) ・速度文の練習 ・通信文の練習	<ul style="list-style-type: none"> 情報を活用するソフトウェアについて理解している。 文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。 10分で310字の文字を打つことができる。 15分で簡単な通信文を作成することができる。 文書作成ソフトウェアで分かりやすい文書を作成するための方法を考え、その表現を実現するための方法を判断できる。 ソフトウェアの各機能を適切に用いて、伝わりやすく分かりやすい文書を作成する方法を主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○	○ ○	○
12 ~ 1	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 3 データの集計と視覚化 4 データベースシステムとオープンデータ	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフの種類、構成要素について理解している。 表計算ソフトウェアの基本的な操作方法を習得している。 情報を処理するための基本的な関数について、それぞれの特徴を理解し、使用するための技術を習得している。 表計算ソフトウェアを用いてグラフを作成するための技術を習得している。 目的や情報の種類に応じて、どのグラフが適切なのかを考え、選択できる。 表やグラフを用いることで情報を視覚的に分かりやすく表現する方法などを主体的に学習しようとしている。 データベースソフトウェアの特徴と機能を理解し、データを活用することができる。 	○ ○ ○ ○	○ ○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
2	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 5 画像・図形処理ソフトウェアの利用 6 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理を行うことができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアの基本的な操作方法を理解し、スライドを作成するための技術を習得している。 ・背景デザイン、アニメーション、図解などの、プレゼンテーションを効果的に演出するための技術を習得している。 ・効果的に情報を伝えるために、どのようなスライドを作成すればよいのかを考え、表現している。 ・プレゼンテーションソフトウェアの適切な活用の仕方について主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○	○	○
3	第4章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 2 システム開発と設計 3 プログラムの設計	<ul style="list-style-type: none"> ・データの重要性や農業情報システムの役割について理解し、AI やロボットの農業への利用や可能性を考えることができる。 ・システム開発・設計の流れを理解し、モデル化について考えることができる。 ・プログラム設計の流れやアルゴリズムを理解し、フローチャートを使って表現することができる。 ・流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。 ・人工知能の概要や農業における利用例及びロボット農機について主体的に学習しようとしている。 	○	○ ○ ○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業と情報	農業 科学科	2年	2	農業と情報（実教出版）	全商ビジネス文書実務検定模擬 試験問題集2級令和5年度版

学習の到達目標	<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技能を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
ペーパーテスト、実技 など	ペーパーテスト、実技、レポート課題 など	観察、レポート課題など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 ~ 11	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現 (全商ビジネス文書実務検定2級に向けての学習) ・速度文の練習 ・通信文の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用するソフトウェアについて理解している。 ・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。 ・10分で460字の文字を打つことができる。 ・15分で通信文を作成することができる。 ・文書作成ソフトウェアで分かりやすい文書を作成するための方法を考え、その表現を実現するための方法を判断できる。 ・ソフトウェアの各機能を適切に用いて、伝わりやすく分かりやすい文書を作成する方法を主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○	○ ○	○
12 ~ 1	第4章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 2 システム開発と設計 3 プログラムの設計	<ul style="list-style-type: none"> ・データの重要性や農業情報システムの役割について理解し、AIやロボットの農業への利用や可能性を考えることができる。 ・システム開発・設計の流れを理解し、モデル化について考えることができる。 ・プログラム設計の流れやアルゴリズムを理解し、フローチャートを使って表現することができる。 ・流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。 ・人工知能の概要や農業における利用例及びロボット農機について主体的に学習しようとしている。 	○	○ ○ ○	○
2	第5章 農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産や経営情報の分析と活用 3 環境に関する情報の分析と活用 4 食品や地域資源に関する情報の分析と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・農業情報の種類と内容について理解し、収集したデータを分析し、主体的に活用しようとしている。 ・農業生産や農業経営、出荷・販売に関する情報について理解し、情報を活用する方法を考えることができる。 ・環境情報の種類と情報内容およびその活用技術について理解している。 ・食品の安全性や地域資源を守るための情報活用技術について理解している。 	○ ○	○	○
3	第6章 農業学習と情報活用 1 農業学習とプロジェクト学習 2 プロジェクト発表と情報発信 3 データの視覚化と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・農業学習の特徴とプロジェクトの四段階について理解している。 ・プロジェクトを主体的・協働的にまとめている。 ・データの特徴を考え、収集したデータを統計処理することができる。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
水産	水産海洋基礎	海洋科学科	1	4	水産海洋基礎	

学習の到達目標	<p>水産や海洋に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解させる。</p> <p>・水産や海洋に関する各科目を学習する上で、水産物の持続的な生産や安定的な供給及び海上における物資の輸送を中核として、海洋環境保全、海洋開発、水産物以外の海洋資源の利用、海洋性レクリエーション等の場の提供、海洋の文化の継承など、水産業や海洋関連産業は、我が国における社会の中で重要な役割を果たしていることを理解させ、海洋を生活基盤とする職業に対する期待と展望を持たせることが極めて重要である。</p> <p>したがって、この科目では、水産や海洋に関する学習の導入を図る基礎的な知識と技術を、実験・実習、見学及び実習船による体験乗船等の実際の、体験的な学習を通して、海、水産物及び船の全体を概観する中で習得させるとともに、水産業や海洋関連産業に従事する者としての使命や責任について考えさせ、水産や海洋に関する関心とその学習への意欲を高め、水産業や海洋関連産業が、食生活をはじめ国民生活の中で果たしている役割を理解させることをねらいとする。</p>
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
海のあらましについては、四方を海に囲まれ、豊富な水産物をタンパク質供給源としてきた魚食文化を持つ我が国にとって、海、水産物及び船の果たす役割の重要性やその全体像を概観させるようにする	水産業と海洋関連産業のあらましについては、地域の産業現場の見学等により、具体的な事例を通して、これらの産業に従事する者の使命や責任を実感させるとともに、卒業後の進路とも関連付けて考えさせるようにする。	基礎実習については、地域の実態や海況等に応じて、安全確保に十分留意しながら、適切な時期や内容を考慮し、計画的に実施するようにする。
定期テスト など	定期テスト（記述・論述問題など） レポート課題・実習 など	レポート課題 実習・実技演習 など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 7	第1章 海のあらまし 第1節 世界の海 第2節 日本の海 第3節 海と食生活・文化・社会 第4節 海と生物 第5節 海と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・海と人間の関わりの歴史や海が人間社会に果たしている役割を理解する。 ・海洋の物理的、化学的な特性に関する基本的な事項について理解する。 ・磯採集や採集した生物の飼育及び観察などを通して、海の生物の特性に関する基礎的な事項について理解する。 ・水質調査、海浜清掃などの体験的な学習を基礎として、海の水質保全、海洋生物の生態系や生活環境の保全、陸水や海浜等の環境保全などの基本的な事項を人間の生活と関連づけて理解する。 	○	○	○
9 12	第2章 水産業と海洋関連業のあらまし 第1節 船と暮らし 第2節 水産業の歴史と現状 第3節 とる漁業 第4節 つくり育てる漁業 第5節 漁業・資源管理 第6節 水産物の流通 第7節 水産物の加工 第8節 海洋関連産業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食生活に果たす水産物の量的・質的な役割と、栄養、成分価値等についての基礎的な事項を理解する。 ・漁業の変遷と現状、我が国及び世界における漁業生産の動向を我が国の水産業の位置付けと関連させて理解する。 ・「とる漁業」では、水産物の習性と漁具・漁法、漁船及び漁業機器等についての基礎的な事項を理解する。 ・「つくる漁業」では、種苗の生産、育成、放流、漁獲及び海洋環境等について基礎的な事項について実習を通して理解する。 ・「資源管理」では、水産資源の特性、漁獲可能量制度による資源の適正管理等について基礎的な事項を理解する。 ・水産物の特性や貯蔵・加工、流通や販売に関する基礎的な事項を理解する。 ・海洋開発関連、海洋エネルギーや深層水の利用など水産物以外の海洋資源関連、環境関連機器、海洋関連産業についてその概要を理解する。 	○	○	○
1 3	第3章 基礎実習 第1節 水産・海洋生物の採集 第2節 水産・海洋生物の飼育 第3節 食品加工 第4節 海洋実習	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋生物を実際に採集に行くことで、海洋環境とその生態についての関係を学ぶ。 ・海洋生物を飼育することにより、水産物の特性を生態から学ぶ。 ・実習船を使った保守整備など船の運航等について座学と実習により理解する。 ・「有磯丸」の操船や機関の運転、「そよかぜ」の操艇や運航に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・集団の一員として必要な協調性、体力、気力を養うとともに海と船に対する理解を深める。 ・結索及び編網技能を習得する。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
商業	情報処理	ビジネス科	1年	4	情報処理（東京法令出版）	全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版） 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級（実教出版）

学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)企業において情報を適切に扱えるようにするための知識や技術を、実務に即して体系的・系統的に身に付ける。</p> <p>(2)情報を適切に扱うことで、さまざまな問題を発見し、解決していけるようにするための力を身に付ける。</p> <p>(3)情報に関する知識や技術を活用し、主体的かつ協働的に問題を解決し、企業活動を改善していこうとする態度を身に付ける。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスにおいて役立てることができ、情報を収集・処理・分析・表現するための知識や技術を身に付けている。	情報を扱うための知識や技術を活用して、情報に関する課題を発見し、解決するための思考力・判断力・表現力を身に付けている。	組織の一員として自己の役割を認識し、情報に関する知識や技術を活用して、協働して課題を解決していこうとする態度を身に付けている。
定期テスト ソフトウェア実習課題	定期テスト ソフトウェア実習課題	ソフトウェア実習

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1章「企業活動と情報処理」 第1節「ビジネスと情報」 ①情報処理の重要性とその活用 ②情報の収集・処理・分析 ③情報処理の進歩と情報システムの活用 ④情報処理にかかわる職業	<ul style="list-style-type: none"> 現代のビジネスを支える情報システムに関する具体的な事例を通して、情報システムがどのような技術によって支えられているのかを理解している。 情報処理に関わる職業や、情報社会を支える仕事について理解している。 ビジネスにおいて情報を効果的に活用するための情報処理の方法について考えている。 情報処理の重要性について関心を持ち、情報処理について主体的に学習しようとしている。 	○ ○	○	○
4	第2節「コミュニケーションと情報デザイン」 ①情報デザインの重要性 ②情報デザインの構成要素 ③色彩が持つ情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報デザインがどのような構成要素によって成り立っているのかを理解している。 身の回りの具体的な事例を踏まえて、色彩が人々の心理にどのような影響を与えているのかを考えている。 情報デザインによってコミュニケーションを促進することができることを踏まえ、情報デザインについて主体的に学習しようとしている。 	○		○ ○
5	第3節「情報モラル」 ①情報モラル ②知的財産の保護と管理 ③個人情報の保護と管理	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルとは何か、情報モラルを守るためにはどのようなことに気を付ければよいか、などについて理解している。 知的財産の種類やそれぞれの具体的内容について理解している。 個人情報の構成要素や保護方法について理解している。 情報モラルに関する課題がある具体的な事例について、その問題点と解決方法を考え、表現している。 情報社会において、情報モラルを守ることの重要性を理解したうえで、情報モラルをさまざまな場面で実現していこうとする態度を形成できている。 	○ ○ ○	○	○
5	第2章「コンピュータシステムと情報通信ネットワーク」 第1節「コンピュータシステムの概要」 ①コンピュータの基本的な機能と五大装置 ②パソコンのハードウェア ③データの表現と処理の	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータがどのような構成要素によって成り立っているのかを理解している。 コンピュータを構成する各装置の特徴について理解している。 コンピュータの機能を実現するためのソフトウェアについて、その種類や特徴を理解している。 ファイル管理の方法について理解し、関連する技術を習得している。 コンピュータのデータ表現方法について、文字コードなどの具体的な事例を踏まえて考え、表現している。 コンピュータシステムの仕組みについて、主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○ ○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
	しくみ ④パソコンのソフトウェア ⑤ファイル管理				
6	第2節「情報通信ネットワークのしくみと構成」 ①情報通信ネットワークのしくみと構成 ②LANの種類と特徴 ③インターネット ④情報システムで提供されるサービス	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークを構成する機器の種類や特徴について理解している。 インターネットの基本的な仕組みや接続方法について理解している。 情報通信ネットワークを利用することで、どのようなことが実現可能になるのか、具体的な事例を踏まえて考え、表現している。 情報通信ネットワークが実現する利便性や、情報通信ネットワークの仕組みについて、主体的に学習しようとしている。 	○ ○	○	○
6	第3節「情報通信ネットワークの活用」 ①情報の検索と収集 ②ブラウザソフトの活用 ③電子メールの活用 ④情報の信頼性と信憑性	<ul style="list-style-type: none"> 検索エンジンやブラウザの活用方法などの、インターネットを用いて情報を収集するための技術を習得している。 電子メールをビジネスにおいて活用する方法について理解し、関連する技術を習得している。 インターネットを介して入手した情報の信憑性について判断し、情報を適切に収集・活用する方法について考え、表現している。 情報を適切に活用するための情報リテラシーを身に付けようとしている。 	○ ○	○	○
7	第4節「情報セキュリティの確保」 ①情報セキュリティとその重要性 ②情報セキュリティを脅かすリスク ③情報セキュリティを確保する方法	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティを脅かすリスクにはどのようなものがあるのかを理解している。 情報セキュリティを確保するための方法にはどのようなものがあるのかを理解している。 個人や企業が守るべき情報にはどのようなものがあるのかを考えている。 情報セキュリティに関して課題のある場面において、どのようにすれば情報セキュリティを確保することができるのかを考えている。 個人や企業が情報セキュリティについて配慮することの重要性を理解し、情報セキュリティを確保する方法について主体的に学習しようとしている。 	○ ○	○ ○	○
9	第3章「情報の集計と分析」 第1節「ビジネスと統計」 ①情報を分析することの重要性 ②統計の基礎 ③情報の傾向を把握する方法 ④相関関係を把握する方法 ⑤パレート図を用いた分析の方法 ⑥時系列分析の方法	<ul style="list-style-type: none"> 統計で扱うデータの種類や、データを収集するための調査方法について理解している。 情報の傾向を把握するための技術を習得している。 相関関係を把握するための技術を習得している。 パレート図を用いて、売れ筋商品を分析するための技術を習得している。 時系列分析によって、将来の予測を立てるための技術を習得している。 統計的手法を用いて、意思決定に情報を活用する方法を考え、表現している。 情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 	○ ○ ○ ○ ○	○	○
9	第2節「表・グラフの作成と表計算ソフトウェアの特徴」 ①表とグラフの基礎 ②—1 表計算ソフトウェアの基礎 ②—2 表計算ソフトウェアのグラフ作成	<ul style="list-style-type: none"> 表の種類や、表の構成要素について理解している。 グラフの種類や、グラフの構成要素について理解している。 表計算ソフトウェアの特徴や画面構成について理解し、基本的な操作方法を習得している。 SUM関数、IF関数などの、情報を処理するための基本的な関数について、それぞれの特徴を理解し、使用するための技術を習得している。 表計算ソフトウェアを用いてグラフを作成するための技術を習得している。 目的や情報の種類に応じて、どのグラフが適切なのかを考え、選択している。 表やグラフを用いることによって、情報を視覚的に分かりやすく表現することが可能となることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 	○ ○ ○ ○	○	○
10	第3節「情報の分析」 ①—1 関数を用いた情報の分析—データの特徴を見てみよう— ①—2 関数を用いた情報の分析—お買い上げ一覧表を作成しよう— ①—3 関数を用いた情報の分析—データを分けて判定しよう— ①—4 関数を用いた情報の分析—金種計算表を作成しよう— ①—5 関数を用いた情報の分析—勤務時間を計	<ul style="list-style-type: none"> 統計的処理を行うことができる表計算ソフトウェアの関数について、それぞれの特徴を理解し、適切に活用するための技術を習得している。 検索を行うことができる表計算ソフトウェアの関数について、それぞれの特徴を理解し、適切に活用するための技術を習得している。 条件による場合分けによって処理を分岐させることができる表計算ソフトウェアの関数について、それぞれの特徴を理解し、適切に活用するための技術を習得している。 データ集計を行うことができる表計算ソフトウェアの関数について、それぞれの特徴を理解し、適切に活用するための技術を習得している。 タイムマネジメントの際に利用できる、日付や時刻に関する表計算ソフトウェアの関数について、それぞれの特徴を理解し、適切に活用するための技術を習得している。 データベースを活用することができる表計算ソフトウェアの関数について、それぞれの特徴を理解し、適切に活用するための技術を習得している。 表計算ソフトウェアにおいて、データを整理するための技術を習得している。 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
	算しようー ①ー6 関数を用いた情報の分析ー一覧表から目的のデータを集計しようー ②整列, 検索, 抽出機能を用いた情報の分析	<ul style="list-style-type: none"> 各関数や操作方法について理解したうえで, 具体的な事例のなかで, どのような場面でのどのような表計算ソフトウェアの処理を行うのがよいのかを考え, 表現している。 表計算ソフトウェアを適切に活用することで, 情報を分析したり加工したりすることができることを理解し, 主体的にその方法などを学習しようとしている。 		○	○
11	第4節「問題の発見と解決の方法」 ①問題解決のプロセス ②問題の発見から解決まで ③アルゴリズムとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> 問題を発見し, 解決するためのプロセスについて理解している。 情報を収集し, 整理して問題を解決するための各方法について, それぞれの特徴を理解している。 問題解決にアルゴリズムを活用するための知識を理解し, 流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。 具体的な事例に基づいて, ブレーンストーミング, KJ法, SWOT分析などの手法によって, 問題状況の解決策を考え, 表現している。 個人や企業が直面するさまざまな問題について, 情報を適切に活用することでそれらを明確にし, 解決の方法が見いだせることを理解し, 主体的にその方法などを習得しようとしている。 	○ ○	○	○
11	第4章「ビジネス文書の作成」 第1節「文章の表現」 ①わかりやすい文章 ②文章構成の工夫 ③敬語表現の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい情報を効果的に伝えることができる文書表現について理解している。 敬語表現について理解している。 さまざまな文章を比較することで, どのような文章や表現方法が分かりやすいのかを考えている。 同じ内容でも, 文章の作成方法によって伝わりやすさや分かりやすさが異なってくることを理解し, 伝わりやすい文章を書く方法を主体的に学習しようとしている。 	○ ○	○	○
12	第2節「文書作成ソフトウェアの特徴」 ①文書作成ソフトウェアの基本操作 ②文書作成ソフトウェアの編集機能	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成ソフトウェアの特徴や画面構成について理解し, 基本的な操作方法を習得している。 文書作成ソフトウェアの編集機能を用いて分かりやすい文書を作成するための技術を習得している。 文書作成ソフトウェアを用いて, 図形を挿入したり, グラフを挿入したりするための技術を習得している。 どのような表現を用いれば分かりやすい文書を作成できるのかを考え, その表現を文書作成ソフトウェアで実現するための方法を適切に判断している。 文書作成ソフトウェアの各機能を適切に用いて, 伝わりやすく分かりやすい文書を作成する方法を主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○	○	○
12	第3節「ビジネス文書の種類と作成」 ①ビジネス文書の種類と基本的な構成 ②依頼書の作成 ③挨拶状の作成 ④礼状の作成 ⑤起案書(稟議書)の作成 ⑥報告書の作成 ⑦企画書の作成 ⑧リーフレットの作成	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス文書にはどのような種類があるのかを理解している。 社外文書がどのような構成要素によって成り立っているのかを理解している。 依頼書, 挨拶状, 礼状, 起案書(稟議書), 報告書, 企画書, リーフレットなどの特徴を理解し, 作成方法を習得している。 各ビジネス文書について, どのようなことに注意すれば伝わりやすく分かりやすいものになるのかを考え, 表現しようとしている。 各ビジネス文書に工夫を凝らし, 伝わりやすく分かりやすいものにしようとしている。 	○ ○ ○	○	○
1	第5章「プレゼンテーション」 第1節「プレゼンテーションの技法」 ①プレゼンテーションとは ②話し方の技術 ③機器の活用 ④プレゼンテーションの準備	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションとは何か, プレゼンテーションにはどのような種類があるのかを理解している。 相手に伝わりやすい話し方の技術について理解している。 プレゼンテーションを効果的に行うための機器について, 特徴や使用方法を理解している。 プレゼンテーションを行うための事前準備において行うべきことを理解している。 プレゼンテーションにおいて, どのような表現を用いればより効果的に情報を伝えることができるのかを考え, 表現しようとしている。 実際の事例に基づいて, 知識を活用し, プレゼンテーションの準備を適切に行おうとしている。 効果的なプレゼンテーションを行うための方法について, 主体的に学習しようとしている。 	○ ○ ○	○ ○	○
2 3	第2節「プレゼンテーションソフトウェアの基本操作と活用」 ①プレゼンテーションソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトウェアの特徴や画面構成について理解し, 基本的な操作方法を習得している。 プレゼンテーションソフトウェアを用いてスライドを作成するための技術を習得している。 背景デザイン, アニメーション, 図解などの, プレゼンテーションを効果的 	○ ○ ○		

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
	②提示資料の作成 ③効果的なスライドの設定 ④スライドの実行とシナリオの作成	に演出するための技術を習得している。 ・プレゼンテーションソフトウェアを用いて実際にプレゼンテーションを行うための技術を習得している。 ・効果的に情報を伝えるために、どのようなスライドを作成すればよいのかを考え、表現している。 ・プレゼンテーションソフトウェアを適切に活用することができれば、より効果的なプレゼンテーションを実現することができることを理解し、そのための方法を主体的に学習しようとしている。	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	生活産業情報	生活福祉科	1年 2年	2単位 1単位	生活産業情報 (実教出版)	全商ビジネス文書実務検定 模擬問題集3級(実教出版) 全商情報処理検定 模擬問題集3級(実教出版)

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
定期テストなど	定期テスト(記述・論述問題)、レポート課題、発表など	レポート課題、発表、学習の振り返りなど

学習項目	学習内容および評価規準	知 思 主		
		知	思	主
第1章 情報化の進展と生活産業 1節 情報化の進展と社会 2節 生活産業における情報化の進展	<ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展に伴う産業や生活の変化について理解している。 生活産業におけるコンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークの役割や利用状況について理解し、情報化が及ぼす影響について考察している。 情報化の進展と生活産業について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
第2章 情報モラルとセキュリティ 1節 ネットワーク社会の危険性 2節 情報モラルとマナー 3節 セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人のプライバシーや著作権など知的財産の保護、収集した情報の管理、発信する情報に対する責任など情報モラルと法令遵守の必要性、情報通信ネットワークの仕組み及びセキュリティ管理の方法について理解している。 情報モラルやセキュリティ管理に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 情報モラルとセキュリティについて自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
第6章 情報の処理・分析・発信 1節 日本語ワードプロセッサの利用 2節 表計算ソフトの利用 3節 画像利用ソフトの利用 4節 プレゼンテーションソフトの利用 5節 Web ページ作成ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> タイピングスピード向上を目指しながら、文章を作成する力を身に付け、見やすい文章の作成のための操作方法を理解している。 基本的な操作方法を理解しているとともに、基本的なデータ処理やグラフを作成する力を身に付けている。 HTML 言語からホームページの仕組みを理解し、基本的なページを作成する力を身に付けている。 コンピュータの基本操作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 コンピュータの基本操作について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
第3章 生活産業における情報及び情報手段の活用 1節 生活産業における情報活用の意義 2節 生活産業における情報活用の実際	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住、保育、家庭看護及び介護などのヒューマンサービスにかかわる生活産業の情報を、情報機器や情報通信ネットワークを利用して、実際に収集、処理、分析、発信する技術を身に付けている。 目的や対象に応じたコミュニケーションの方法や、情報デザインについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザインについて自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○

学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
第7章 さまざまな分野における利用 1節 食生活関連分野での利用 2節 衣生活関連分野での利用 3節 住生活関連分野での利用 4節 ヒューマンサービス分野での利用 5節 消費生活分野での利用	<ul style="list-style-type: none"> ・生活産業に関するコンピュータシステムとして、CAD/CAMシステム、シミュレーションシステム、データベースシステム、商品管理システムなどについて、具体的な事例を通して理解している。 ・衣食住、ヒューマンサービスの各分野において、情報機器や情報通信ネットワーク及び各種アプリケーションソフトの利用により、収集、処理、分析、発信を通して、情報コンテンツの作成について工夫している。 ・生活産業におけるコミュニケーションと情報デザインについて自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
第4章 情報機器のしくみ 1節 コンピュータのしくみ 2節 ハードウェア 3節 ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータなどの情報機器の仕組みやハードウェアとソフトウェア及び情報通信ネットワークの仕組みについて理解し、コンピュータの基本操作を習得している。 ・コンピュータの機能と構成を理解し、基本的な操作をする力が身についている。 ・コンピュータの基本操作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 ・コンピュータの基本操作について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
第5章 情報機器と情報通信ネットワーク 1節 情報通信ネットワークのしくみ 2節 情報通信ネットワークの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの仕組みについて理解している。 ・情報通信ネットワークの利用に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 ・情報通信ネットワークの利用について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
家庭	生活産業情報	生活福祉科	3	1	生活産業情報 (実教出版)	・全商情報処理検定2・3級(実教出版) ・全商ビジネス文書実務検定模擬 問題集2・3級(実教出版)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	・生活産業における情報の意義や役割を理解させ、情報の処理に関する知識と技術を習得させるとともに、生活産業の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。
---------------------	--

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
第1章 情報化の進展と生活産業	1節 情報化の進展と社会 2節 生活産業における情報化の進展	・情報化の進展に伴う産業や生活の変化について具体的に扱うとともに、生活産業におけるコンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークの役割や利用状況について理解する。
第2章 情報モラルとセキュリティ	1節 ネットワーク社会の危険性 2節 情報モラルとマナー 3節 セキュリティ管理	・個人のプライバシーや著作権など知的財産の保護、収集した情報の管理、発信する情報に対する責任など情報モラルと法令遵守の必要性、情報通信ネットワークシステムにおけるセキュリティ管理の重要性について理解する。
第6章 情報の処理・分析・発信	1節 日本語ワードプロセッサの利用 2節 表計算ソフトの利用 3節 画像利用ソフトの利用 4節 プレゼンテーションソフトの利用 5節 Web ページ作成ソフトの利用	・タイピングスピード向上を目指しながら、文章を作成できる。 ・見やすい文章の作成のために操作方法を理解する。 ・基本的な操作方法を理解するとともに、基本的なデータ処理やグラフが作成できる。 ・基本的な操作方法を理解するとともに、インターネットを利用して資料を収集し、作成できる。 ・HTML 言語からホームページの仕組みを理解し、基本的なページを作成できる。
第3章 生活産業における情報及び情報手段の活用	1節 生活産業における情報活用の意義 2節 生活産業における情報活用の実際	・衣食住、保育、家庭看護及び介護などのヒューマンサービスにかかわる生活産業の情報を、情報機器や情報通信ネットワークを利用して、実際に収集、処理、分析、発信できる。
第7章 さまざまな分野における利用	1節 食生活関連分野での利用 2節 衣生活関連分野での利用 3節 住生活関連分野での利用 4節 ヒューマンサービス分野での利用 5節 消費生活分野での利用	・生活産業に関するコンピュータシステムとして、CAD/CAMシステム、シミュレーションシステム、データベースシステム、商品管理システムなどを取り上げ、具体的な事例を通して理解する。
第4章 情報機器のしくみ	1節 コンピュータのしくみ 2節 ハードウェア 3節 ソフトウェア	・コンピュータなどの情報機器の仕組みやハードウェアとソフトウェア及び情報通信ネットワークの仕組みについて理解し、コンピュータの基本操作を習得する。
第5章 情報機器と情報通信ネットワーク	1節 情報通信ネットワークのしくみ 2節 情報通信ネットワークの利用	・コンピュータの機能と構成を理解し、基本操作ができる。 ・ネットワークについて理解する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会における情報モラル及び危機管理方法について理解できたか。 ・ソフトウェア、インターネットの利用に関心を持ち、意欲的に授業に参加し、内容を理解しようとしていたか。 ・ソフトウェア、インターネットの利用、使用方法を身につけ、主体的にコンピュータを利用し、実際の生活に役立てることができたか。 ・全商ビジネス文書実務検定2・3級の資格取得ができたか。 <p>以上の観点を踏まえ、授業への取り組み状況（授業態度、学習活動への参加状況）、資格の取得状況、定期考査などから総合的に評価します。</p>
-----------------	--

4 学習のアドバイス

・実習が多いので、しっかりと説明を聞いて、授業中に理解できるように熱心に実習に取り組みましょう。できないところ、わからないところは、遠慮しないで質問してください。
